

アグアスカリエンテス自治大学(メキシコ)と大学間交流協定を締結

平成23年10月28日、メキシコのカルロス ロサノ アグアスカリエンテス州知事、マリオ アンドラーデ アグアスカリエンテス自治大学長一行が千葉大学を表敬訪問し、大学間交流協定の署名式を行った。

アグアスカリエンテス自治大学は、理科自治学院 (Instituto Autonomo de Ciencias) として 1867 年に設立され、1973 年に自治権のある大学に改組された。現在は農学、医学、デザイン・建設科学、経営管理学、社会人文学、理学の 6 つのセンター (学部+大学院修士課程) を擁する総合大学である。

アグアスカリエンテス自治大学と千葉大学は、1997 年に同大学の卒業生を国費留学生として受け入れたことを契機に研究・教育の情報交流を開始し、以降、工学研究科都市環境システムコース・建築学コースを中心に 15 年近くにわたり交流を行ってきた。その間、2004 年 7 月に工学部とアグアスカリエンテス自治大学デザイン・建設科学センターとの間で部局間協定、さらに 2006 年 3 月には工学部及び大学院自然科学研究科とアグアスカリエンテス自治大学との間で部局間協定を締結している。

署名式には、両学長の署名に加え、アグアスカリエンテス州知事が立会人として署名を行った。千葉大学からは徳久理事 (研究・国際担当)、北村工学研究科長等が同席し、終始和やかな雰囲気の中、大学間交流協定の署名が執り行われた。

表敬後、一行は工学研究科を訪問し今後の交流について意見交換を行い、新たにデザイン分野も含め、教育研究交流をさらに拡大させることで合意した。



カルロス ロサノ アグアスカリエンテス州知事(中央)、
マリオ アンドラーデ アグアスカリエンテス自治大学長(左)と齋藤学長